

○事務局 大変長らくお待たせいたしました。定刻前ではございますが、準備が整いましたので、ただいまより第5回高石市立幼稚園再編等検討委員会を開催させていただきます。

それでは、検討委員会設置要綱の規定に従いまして、大方委員長に進行をお願いいたします。

○大方委員長 ありがとうございます。そうしましたら、第5回高石市立幼稚園再編等検討委員会を始めさせていただきます。

皆さんのところに、一応、案の1と2という形で今お手元のところにお渡ししていると思いますので、事前に読んでいただいたと思いますが、どちらというわけではなくて、文言等に関しましても、これで望ましいかどうかも含めてご意見をちょうだいしたらいいのかなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

先に、まず事務局のほうから内容についてご説明いただけますでしょうか。お願いします。

○事務局 それでは、高石市立幼稚園再編等計画並びに高石市立幼稚園再編等計画に関する提言書（案）につきましてご説明させていただきます。長くなりますので、座って説明させていただきます。

まず、案1のほうからご説明させていただきます。案1のほうをめぐっていただけますでしょうか。

まず、高石市におけます今後の幼児教育の方針ということで、高石市教育委員会での幼児教育に対する基本的な方針でございますが、子どもの心身の健やかな成長を促し、生涯にわたる人間形成の基礎を培うため、今後幼児教育を進めるに当たっては、「高石市の幼児教育のあり方報告書」の内容を踏まえ、施策の展開に努めることとする。ということでございます。

その方針に従いまして目標を定めてございます。目標といたしましては、高石市の幼児教育の現状を認識し、公民の役割分担を意識しながら、市立幼稚園の再編等により、教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保するというものでございます。

○大方委員長 ばあっと言ってしまうとわからなくなるので、きょうは一応5回目になりましたんで、ちょっとゆっくりいきましょうね。

まず、今までのところをお読みいただきまして、特に問題ないかと思ひますけれど、確認をお願いします。もともとこの高石市立幼稚園再編等検討委員会は、高石市の幼児教育のあり方の報告書の内容を踏まえてということで、ここで何かを決めるということではな

くて、教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保するために、現状をどう認識していくのかということですね、それに伴って、子どもの教育的配慮も含めた集団力というものをどう考えていくのかという視点で議論をしてきたと思いますけれども、まずそこまでの文章で、文言等も踏まえて、おかしなところがあれば言っていただきたいと思います。

よろしいですか。もし後で気づかれたらまた言ってください。

じゃ、次、お願いします。

○事務局 まず、1番目の公民の役割分担についてでございますが、少子化がますます進んでいる中、保護者ニーズも多様化している状況でございます。公立と私立のそれぞれの特色を生かして、保護者ニーズに合ったサービスを選択できるよう、役割の分担をし、目的や機能の違いを踏まえながら展開を進めていくということでございます。

まず、公立幼稚園の役割といたしましては、これまで地域の子どもを地域で育てるという役割を担ってきたということでございます。次に、障がい児でありますとか、今課題を抱えておられる教育環境にある親子への教育の支援を担っていくと。次に、核家族化等といった子育て環境の変化に対応するために、幼児教育センター的な機能を担う必要があるだろうと、この3点が公立幼稚園の役割ということで考えてございます。

次に、私立幼稚園の役割でございますが、これまで3歳児保育の早期実践でありますとか、多様なニーズに応じた特色のある教育を実践してこられております。また、経営努力の中で多様かつ特色のある教育機会を提供しているというものでございます。

よろしいでしょうか。

○大方委員長 そこまでのところでいかがでございますでしょうか。かなり文言として、講座がどうのとなっていたんで、多様なニーズに応じたという形の表現に変わっているんですけれども。公民の役割分担ということで、それぞれの理念なり教育方針が違うので、ここで私たちがごちゃごちゃ言うような話ではないんですけれども、一応大きな指針としてここに書いているところです。

では、次にいってください。

○事務局 では、次のページをお願いいたします。

2番目の市立幼稚園の適正規模及び適正配置についてでございます。

これにつきましては、幼児教育のさらなる向上を目指し、教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保するために、市立幼稚園の再編によりまして適正な規模の市立幼

稚園を適正に配置してまいりたいということでございます。

なお、再編後の通園手段を確保するための通園バスの導入につきましては、中学校区をベースに再編を実施した場合については、市内ほとんどの区域で徒歩での通園が可能と、一定認められますので、通園バスの導入については不要と考えてございます。

以上でございます。

○大方委員長　ここで、市立幼稚園の適正規模及び適正配置ということで、この会議の中で、再編等計画というこの委員会の名称が物語っていて、保護者の方からもこのままというのではないのでしょうかというご質問が最初のころにあったと思います。そして、その前のあり方検討委員会の中で、教育上望ましい集団として本当は複数学級あるのがいい、それから、できれば1クラス20人というようなことが、もともとのこの会の前提としての報告書にあって、園長先生のほうからも、これに合わせてしまうと1園になってしまうというようなご意見もあって、そこからもともとはスタートしたわけです。

ただ、後ほども出てくると思いますけれども、いきなり、それでは望ましくないんじゃないか、または集約することによって公立幼稚園のほうに転園していかれる方もいるんじゃないかということで、もう少し緩やかにこの会としては考えてほしいということが議論としては上がってきて、20名というようなことで決めてしまうのは少し緩やかに考えたいなということで、議論をしてきたんじゃないかなと思いますので、その上でのこの文章ということになりますので。

適正規模、適正配置ということは、ト田先生や菊野先生、校長先生からも、集団力としては、少子化の中で少なればいいという問題ではもちろんないけれども、もしかしたら公立のほうに移っていかれる人もいるかなというご提言もいただきながら、20名ということをやっぱり基準はあるのかなというような議論をしつつ進めてきた。

通園バスのこともいろんな議論があって、やっぱり公立幼稚園は徒歩で通園ということが、保護者と子どもの顔が見えるということなんで、できればバスということじゃなくて、歩くほうが望ましいんじゃないかというような議論があって、ここで私たちが決定するようなことは何もできる会ではないんですけれども、導入はなくてもいいんじゃないかということで、ここの文言になっているところです。

経過としてはいかがですか、そんな感じで話し合ってきたんじゃないかと思うんですが、何かありましたらおっしゃってください。

特になければ、次にいっていいですか。

はい、じゃお願いします。

○事務局 3番目の預かり保育及び3歳児保育についてでございますが、保護者からのニーズが高い預かり保育でありますとか3歳児保育につきましては、国の子ども・子育て新システムの動向を注視するとともに、仮称ではございますが、市町村新システム事業計画の策定とあわせて導入を図ることとしたいというものでございます。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。この件に関しても何回か議論をしてきて、園長先生からも保護者からも、特に校長先生からも3歳児保育ということの話が出て、ここで何回も議論をしてきました。最終的にここに書かせてもらっているのは、そしてアンケートの結果というのものも、ここではそれを受け取るわけにはいかないですけれども、数字としてこういう数字がありますということを園長先生も保護者も言っていただいて、3歳児保育に対するニーズも高く、一方預かり保育に対するニーズも多くて、それについては、議論の中では、来年すぐにできないだろうかという意見もあって、公立幼稚園も3歳児保育をやったらもっと人が来てくれるんじゃないかというような声もあったかと思えます。

ただ、そのことも具体的にイメージし、ここでシミュレーションし、この報告書を私たちが出してそれで終わりではないので、来年の入園説明ですね、私立の場合は9月、早い段階で10月に募集されるので、中途半端な情報をここでいきますとは言えることはできないのでというような話になって、やるのは、この会としたら、預かり保育も3歳児保育も公立としてもやったらどうですかという意見にはまとまったんですが、来年の春すぐにといいと、いろんな意味で、どの園でやるかとかいろんな議論をすると、来春には間に合わないかなという話になったかと思えます。

さらに今、国が子ども・子育てシステムということで、子ども手当といういろんな財源的なことやシステムの議論もされているので、それに合わせて、この3歳児保育も預かり保育ということも考えていってもらったらいんじゃないかということで、この会ではそういうような議論になり、書き方としたら、今そこに書いたようなことになっているんですけれども、これで特に問題なければ、このような表現で書かせてもらいたいと思うんですが、よろしいですか。

ということで、次のページにいただけたらと思います。

どうぞ、お願いします。

○事務局 それでは、これまでの4回にわたります検討委員会での議論を踏まえまして高石市立幼稚園再編等計画に関する検討委員会からの提言書の案ということで、ご説明させていただきます。

まず、1番目でございますが、市立幼稚園の適正規模、適正配置についてでございます。

市立幼稚園の適正な規模としては、教育上適切な集団活動が実施できる教育環境を整備していく上で、1クラスの園児数はおおむね20名程度、また、各年齢において複数学級となる規模を基本と考えますが、支援を要する園児の増加に伴い、課題を抱える養育環境にある園児への対応を考慮した運用をお願いしたいと。また、市立幼稚園の適正な配置につきましては、中学校区を中心としたまちづくりの考え方に配慮した配置を基本と考えますが、園児の生活エリアでありますとか、通園時間、通園距離にも配慮した配置とすることでございます。

なお、高石市立幼稚園再編基準に基づきます評価結果等に基づきまして、施設の耐震化及び大規模改修とあわせまして、速やかに再編を進められたいと。その際、保護者への説明責任を十分に果たされたいということでございます。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

お読みいただいて、何かあれば言っていただきたいんですけども、これは先ほども言いましたように、そもそもこの会の前のあり方検討委員会が出てきた数字の1クラスの園児数おおむね20名程度、小学校のほうで校長先生からもご指摘があったことやったかなと思うんですが、間違ったら言ってくださいね。小学校のほうは35名ですよ。最低1クラス35名学級になる。その半分としても18名ですね、18、17になるわけですね。20というのは、それプラスアルファの数字に、1クラスですよ、なった場合の20名ということなんですけど35名の小学校につながる時に、余り少ないと、今度は小学校の集団になじみにくいんじゃないかということで、家に帰ってからも少子化でもあるということから、出てきた20名ということになっているかと思えます。

ただし、先ほど言いましたように、その下にも書いてありますように、支援を要する園児の増加ということもあり、課題を抱える養育環境にある園児への対応ということで、考慮した運用を願いたいというのが私たちの意見としてのまとめだったと思えます。

そして、適正な配置に関しては、中学校区を中心としたまちづくりの考え方、この辺におきましても、学識の先生方のほうからもいろんなご意見もいただき、先生は何て言って

くださったんでしたっけ。小学校より中学校ということなんですか。

○ト田委員 地域教育協議会とか、そういういろんな動きの中で、中学校区を単位とした考え方というのが広がっているということと、あと、公立幼稚園の意義であったり魅力をアップするという意味でも、中学校の単位の中で、幼稚園と小学校と中学校というのが中学校区を単位に縦のつながりというのを持っていくと。その連携の中で、子どもたちが育っていくというシステムをつくっていくということが大事なんではないかというような、そういう言い方をさせていただいたと思います。

○大方委員長 いろんな意見が出たと思いますけれども、できるだけ地域の中で幼稚園同士、幼稚園と保育所にしろ連携し合って、それぞれには少子化が行われているわけですから、ある程度中学校区ぐらいの広さの中で、これは小学校との連携も含めた話の中で、できるだけ創意工夫して、子ども同士が出会えるようなことが大事だなということのまちづくりの考え方を配慮した配置を基本と考えるがということ。ただ、園の生活エリア及び通園時間、通園距離にも配慮した配置とすることということで、提言書のほうの言葉はさせてもらっています。

なお、この辺のところも保護者のほうからも話が出ていたかと思いますが、高石市立幼稚園再編基準に基づく評価結果等、これは後から出てくる表で大分議論して、この後のまともに出てきますが、施設の耐震化及び大規模改修とあわせ、速やかに再編を進められたいと。これは、耐震化はどこの園もかなりひどい数字だったので、これは速やかに、これだけ言われているときなので、ぜひすぐにそれに関する改修はやっていただきたいということは、みんな合意の上で話が出たかと思います。

ただ、保護者への説明責任ということですね、これはいろんな意味において十分に果たしてほしいということで、ここに書かせていただいております。

じゃ、次、お願いします。

○事務局 では、2番目でございますが、その他市立幼稚園の再編に関することでございます。

市立幼稚園の再編とともに、こちら、案として「延長」と書いていますが、「預かり保育」の間違いでございます。市立幼稚園の再編とともに、預かり保育の実施及び3歳児保育の試行実施につきましては、国の子ども・子育て新システムの施行に合わせ導入を図りたい。また、バス等による通園手段確保につきましては、継続的な調査研究が必要と考えますということでございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。今、読んでいただいたさっきの1と2は、委員長名による提言書になりますので、提言書のほうでは、先ほどバスの話もしましたが、バス等による通園手段の確保については継続的な調査研究が必要と考えるということで書いておりますので、まだはっきりしたことは十分になっていくかわからないので、調査研究が必要と考えるという形の文言にしています。

特にここまで何かご異存ございますでしょうか。もし修正があればぜひ言っていただきたいんですが。よろしいですか。

はい、校長先生、お願いします。

○西條委員 ここで上から2行目かな。

○大方委員長 はい。

○西條委員 「支援を要する園児」という具合になっていまして、一番最初の「障がい児」から「支援を要する園児」という形が変わっているのは、これは提言書としてはいいかなというふうに、こっちのほうが表示としたらいいと思います。このままでいいと思います。

障がい児というのは、そもそも今そういう言い方するのか。これもちよっと疑問があったんで、この辺はもうちよっと調べて、障がいと言うのか、何というのかなというのもありますんで、この分はまた整理したほうがいいのかなと思います。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。その辺のことも気になった部分があって、提言書としては「支援を要する」という、今子育て支援というように、どちらかといえば特に小学校とのつながりにおいてですので、「支援を要する園児の増加に伴い、課題を抱える養育環境にある園児への対応を考慮した運用を願いたい」というようなことで書かせてもらっていますので、その辺のところは共通理解をしていただけたらと思います。今までの議論の中で「障がい児」という表現をしていたこともあったかと思いますが、「支援を要する」という言葉で統一するほうがいいかなというのが、今の西條委員のご提言かと思いますが。提言書のほうはその言葉を使っていますので、よろしいですか。

じゃ、次、お願いいたします

○事務局 次に、高石市立幼稚園再編基準でございますが、まず1番目といたしまして、適正規模の基準ということでございます。

まず1つ目といたしまして、1クラスの下限はおおむね20名程度といたしますが、支援を要する園児増加への対応等を考慮し、弾力的な運用といたします。

2番目といたしまして、可能な限り各年齢において複数学級を目指してまいりたいというところでございます。

○大方委員長 それでは、1個ずついきましょうかね。基準として、評価項目をつくって、それに合わせて皆さんでいろんなデータや資料を見ながら議論をしてきたかと思います。

先ほどからも出てきているように、1クラスの下限はおおむね20名程度とするが、この会としては、支援を要する園児増加への対応等を考慮し、弾力的な運用とするということを書いてあることと、2つ目は、可能な限り各年齢において複数学級を目指すというのが、弾力的な運用をしてもらいながら、できれば公立幼稚園に行く方が増えていって複数になっていただけたらいいなということも、この会の中で、その中で3歳児というのが出てきたんやと思いますけれども、できるだけ頑張ってもらって、園児が増えてほしいという願いも込めて複数学級を目指すという書き方をしています。

それから、適正配置の基準というの、これはまとめになりますが、園児の生活エリア及び通園時間・通園距離に配慮する、中学校区に配慮し、バランスのとれた配置とするというようなことが、ごめんなさい、まだ1だけやったね。すみません、まず1に戻っていただいて、よろしゅうございますか。

では、お願いします。2、私、読んじゃったけれども、どうぞお願いします。

○事務局 再編基準の2番目といたしまして、適正配置の基準でございます。

まず1つ目としまして、園児の生活エリア及び通園時間・通園距離に配慮してまいるということでございます。

2つ目といたしまして、中学校区に配慮し、バランスのとれた配置とするということでございます。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

すみません、皆さんに意見を聞かず、1と2に関しまして何かございますでしょうか。

いろんな意見をちょうだいしながらということだと思いたしますが、じゃ、次、3へいってください。

○事務局 3番目の再編の基準でございますが、評価項目というのを定めまして、評価項目ごとに適正な配点を行いまして、総合的な評価によって再編が必要な市立幼稚園を抽出してまいるということでございます。ちなみに、満点が100点ということでございます。

それから、評価項目でございますが、6つございまして、まず1番目が、通園区域内の



幼児人口に対する就園率ということで、通園区域内におけます市立幼稚園に対するニーズを評価するというものでございます。

2番目としまして、建築年、築年数でございますが、施設の耐用年数でありますとか、老朽化の度合いを評価してまいるというものでございます。

次に、敷地面積でございますが、これは国の子ども・子育て新システムの施行を踏まえまして、施設の拡張等に対します敷地自体のキャパシティーを評価するためのものでございます。

4番目としまして、幼稚園と小学校の位置関係でございますが、これは小学校との連携を図るための物理的な位置関係を評価するものでございます。

次に、5番目といたしまして配置的なバランスということで、これは他の中学校区内に位置します市立幼稚園の通園圏とのバランスを評価するものでございます。

最後、6番目でございますが、避難環境ということで、安心・安全の観点から周辺の避難環境を評価するものでございます。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。案1と案2の何が違うかといったら、この部分の説明を書いたのが案2のほうなので、一応ちょっとそちらのほうにいきたいと思いますので、制度的に今のことだけでよくわからないというような意見もあったので、評価結果の説明を入れての案で、入れないほうが柔らかいという考え方もあるので、入れないという考え方でもどっちでもいいと思いますが、皆さんでこの分の議論をしていただけたらと思っています。

じゃ、評価結果の説明、案に飛びますけれども、ここを読んでいただいてよろしいでしょうか。

○事務局 案2のほうの評価結果の説明でございます。

まず、1番目の通園区域内におけます市立幼稚園に対するニーズを評価するための通園区域内の幼児人口に対する就園率の調査結果でございますが、平均は22.5%でございます。その中で、最も高い通園区域が30.9%の羽衣幼稚園でございます。また、最も低い通園区域につきましては、16.7%の高石幼稚園ということでございました。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。これは、今在園の子どもさんの人数、園児数ですね、園児数でいいますと加茂幼稚園が91名が一番多くて、その次が羽衣さんで46名、

北幼稚園さんが43名で、高陽さんも43名と一緒に、高石さんが23名ということに上がっていたんですけども、就園率ですね、その地域の子どもの4、5歳児の総数で公立幼稚園を選んでいらっしゃる方がどれぐらいいらっしゃるのかということで、就園率ということで調査の結果を表にさせていただいたものを見てみんなで議論してきたと思います。平均が公立幼稚園に行っているのが22.5%で、最も公立の幼稚園に行っている通園区域が30.9%の羽衣幼稚園だったんですね。最も低い通園区域が16.7%の高石幼稚園だったということです。これは、事実だけとして今ここに説明を書いています。これを入れるかどうかは別として、ちょっとお考えいただけたらと思います。

では、2つ目、いってください。

○事務局 2番目でございますが、施設の耐用年数でありますとか老朽化の度合いを評価するための園舎の築年数を調査した結果でございますが、5園ある中で、北幼稚園の管理教室棟というものが築41年で最も古うございます。ただし、同じ北幼稚園の保育棟につきましては、新耐震基準の平成6年3月の竣工でございます、築17年と最も新しい建物でございます。その北幼稚園の配点につきましては、2棟の平均とさせていただいております。そのほかの幼稚園の園舎につきましては、すべて30年以上を経過してございましたが、その中では高陽幼稚園の園舎が他の園に比べて比較的新しいという結果でございました。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。ここは、どこも基本的に古いということが上がってましたので、そんなに差異というのはなかったかと思いますが、やや高陽幼稚園の園舎が比較的新しいというぐらいのところでは。

じゃ、次、お願いします。

○事務局 3番目でございますが、子ども・子育て新システムの施行を踏まえまして、施設の拡張等に対するキャパシティを評価するための幼稚園の敷地面積の調査結果でございますが、高陽幼稚園と加茂幼稚園につきましては敷地面積が3,000平米を超えてございます。この3,000平米といいますのは、幼稚園の設置基準に照らした場合につきましても、敷地のほうは余裕があるという状況でございます、新システムの施行に対する施設の増築でありますとか、改築に対しても対応が可能であろうというふうに考えられるということでございます。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。今後、3歳児をやるとか、新システムでは

3、4、5歳ということになっていきますし、預かり保育のことも出てくるであろうと思われますので、これは国が決めることで、私たちにはわからないことですが、そういった意味で、今後の発展性を考えたときの敷地面積という議論の中でできているもの、高陽幼稚園と加茂幼稚園さんが3,000平方メートルを超えているということ、幼稚園の設置基準に照らしても敷地には余裕があるというようなことですね、施設の増築、改築にも対応が可能かなというようなことだったかと思います。

特に何かありますでしょうか。

では、次、お願いします。

○事務局 4番目でございますが、幼稚園と小学校との連携を図るための物理的な位置関係を評価するために、幼稚園と小学校の位置関係を調査した結果がございますが、羽衣幼稚園が羽衣小学校と近接、隣接しておりまして、連携の可能性の高さというものが見受けられるというものでございます。こういった物理的に近いということにつきましては、災害発生時の安全性の高さを含めまして連携のしやすさというものに合理性があるというふうに考えてございます。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。もちろん近くになくとも、小学校との連携ということは、今どこの幼稚園でも求められていることということは、議論の中でもあったと思います。ただ、避難しやすいとか連携しやすいという合理性ということだけでいうと、羽衣幼稚園は小学校が隣接しているということが挙げられていたかと思います。

何がございますでしょうか、委員のほうから。よろしいですか。

じゃ、お願いします。

○事務局 次に、5番目でございますが、他の中学校区内に位置します市立幼稚園の通園圏とのバランスを評価するための中学校区に配慮した配置的なバランスの調査結果でございますが、取石中学校区にございます加茂幼稚園と高南中学校区にございます高陽幼稚園の通園圏といたしますのが、他の中学校区の幼稚園の通園圏と重複する箇所が少なく、バランス的に一定評価できるというものでございます。また、高南中学校区の高石幼稚園及び高石中学校区内にあります羽衣幼稚園並びに北幼稚園につきましては、他の中学校区の幼稚園の通園圏と重複する箇所が多くなりますので、バランス的には余り評価できないという結果でございます。

以上です。

○大方委員長 今のは、特にそんなに差異はなかったんですけども、一方で今言ったようなことが出てきたかと思いますが、質疑いかがですか。

はい、どうぞ。ちょっと書き方としてわかりにくかったかと。

はい、どうぞ。

○西條委員 この5番の説明だけ読んでも。

○大方委員長 基本がよくわからない。

○西條委員 前に表、円のを見せてもらいましたね。あれで、もう一発にわかったんやけど、この文章だけ見たら、これ、わからへんで、もし説明を加えるんだったら、これに何か表を一つなかったら……

○大方委員長 入れないとわからないですね。

○西條委員 これだけやったら、ちょっとわかれへんなという感じはしますが。

○大方委員長 この5番目のところは、点、点、点を地図の上でつなげて三角をしたときに、できるだけエリアが広がるように、公立の守備範囲が広がるように、点で地図上で結びついたときにはという結果なんですけれども、図を見ないで日本語で書くと余計に意味がわからなくなったなというのがあるので、書くならば図を入れる必要があるし、そうじゃなかったら書かんほうがかえってわかりやすいのかなと。日本語だけではかえってわかりにくくなったなというのが、ちょっと私も改めて読んで実感をして、すみません。

じゃ、これは検討することにしまして、じゃ、次、お願いします。

○事務局 6番目でございますが、安心・安全の観点から周辺の避難環境を評価するために、周辺環境を調査した結果でございますが、各幼稚園とも避難所には比較的近い場所に位置してございます。そういった距離的なものもありますので、災害発生時の避難につきましても比較的容易であると考えられますけれども、とりわけ高石幼稚園につきましても、3方が住宅に囲まれている状況でございます。また周辺道路も狭隘でございますので、避難経路の確保が若干難しいのかなというふうに考えております。

以上です。

○大方委員長 土地の形状等、これは保育の中身とかいう問題ではなくて、逃げやすい環境ですね、そして立地関係として、安心・安全の観点からどうかというような議論があったということの説明をここに書いているわけですけども、今まで言ったこの1、2、3、4、5、6の説明を入れているのが2で、入れていないのが1。さっき西條委員が言っていたように、書いたほうがかえって何かわかりにくくなったような部分もなきにし

もあらずですし、書いておかないとわからん部分もありますし、議論したことが全部ここに、評価結果の説明が書けているわけでもないので、中途半端なような気がしますからということで、皆さんでお考えいただいたらいいかなと思いますが。

またこの入れるかどうかは、ちょっとお考えいただきながら、最後のページに進みたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○事務局 高石市立幼稚園の再編等についてでございますが、高石市立幼稚園再編に係ります評価結果及び幼児人口並びに市立幼稚園への就園率、さらには幼稚園の適正規模を総合的に勘案した場合、高石市におけます市立幼稚園については1園に再編することが適正であると考えられます。しかしながら、再編につきましては、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮する必要があることから、1中学校区1幼稚園を基本とした再編を実施することとし、5園を3園に再編することが望ましいということでございます。

その中で、高南中学校区におけます再編につきましては、総合評価の低い幼稚園を廃園とすることといたしまして、平成24年度の4歳児の募集についてはこれを行わず、平成24年度末をもって廃園することが望ましいということでございます。ただし、平成24年度におきましては、廃園の対象になる幼稚園での幼児教育における適切な集団規模が確保できない可能性が高いことから、教育的な配慮が必要と考えますということでございます。

また、高石中学校区におけます再編についてでございますが、総合評価の低い幼稚園を廃園するというを基本といたしますが、廃園対象幼稚園でありますとか、廃園の時期につきましては、地域におけます市立幼稚園に対するニーズでありますとか、小学校との教育的連携を考慮しまして、また国の子ども・子育て新システムの動向でありますとか、同システムに係ります新法の施行内容を見きわめた上で決定することが望ましいということでございます。

なお、子ども・子育て新システムが提唱いたしております幼保一元化に向けまして、将来的には、さらなる市立幼稚園等の再編等によって質の高い学校教育・保育の一体的提供等が可能となるシステムの構築が必要と考えますということでございます。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。このページは特にきちんと読んでいただいて、文言等も見てくださいと思います。

最初の3行のところですね、これは入れる必要があるかないかということも、ややなきにしもあらずなんですけれども、最初の20人ということでスタートしたときには、ぱっと

この数字を見て、それをこの園の中でクリアしているところは加茂幼稚園しかなくて、あとは全部複数学級にはなっていないし、人数も1クラスが11名とか19名とか少なくなっていてというような議論があつて、しかしながら、先ほどから話をしていますように、いきなり1園はないでしょうというような議論になりまして、さらに公立をやっぱり希望される方は、統廃合をかげんしたとしても、公立幼稚園のほうに行けば、まだまだぎりぎりのラインのところもあるし、今後の予測も見込まれるので、もう少し緩やかに考えたほうがこの会としては望ましいんじゃないかということだったと思います。

最初のときのことがあつて、その最初の3行を入れているんですけども、書き方が、この数字が出てくると何かすごくあれなので、皆さんがどのようにお考えになるかということになりますので、最終的にお考えになっていただきたいと思っています。

本来の適正ということで、集団力からいったら、これは公立幼稚園がいいとか悪いとかの議論ではなくて、教育的配慮としての人数の議論の中でのことなので、ここでは公立幼稚園の意義というのは十分議論し、先生方が一生懸命されているということも保護者にも評価をしてもらい、私たちも必要性というものも何度も話をしながら進めてきたと思いますが、この3行のところはいかがでしょうか。

今、全部読んでいただきましたが、5園を3園ということは、校区の中で考えたときの3園ということが、ここは決定機関でないので、一応「望ましい」ということで、あえて「すること」というような表現はしていません。あくまでも望ましいと、教育的なこと考えて望ましいということであつて、その次ですね、高南中学校区においては総合評価の低い幼稚園というのが、もともと再編等計画というこの会議の性格というところからいって、とりあえずこの評価をして、その中で方向性だけを報告するというところからスタートしていますので、一番、総合評価の中で皆さんと議論した中におきましては、この高南中学校区においては、総合評価が著しく低い幼稚園というのは、24年度の4歳児の募集についてはこれを行わず、24年度末をもって廃園することが望ましいんじゃないかという議論に達したと思います。

ただし、年長さんに関しましては、ここでも議論があつて、そのままその幼稚園で卒園をするということを保護者としては希望されるんじゃないかという議論があつて、その辺のところは幼稚園での幼児教育における適切な集団規模を確保できない可能性が高い、教育的配慮は必要なんだけれども、かといって保護者の気持ちもあるだろうから、年長さんになる方の取り扱いに関しては配慮が要るというような話をここでしてきたと思います。

ただ、今この数字から見ますと、本当に、もしかして人数がふえるかどうかは、途中から入ってこられることもないとは言えないわけですが、11名という単位とかで、例えば10名ぐらいで1つの園に1学年が残ったときに、それは果たして教育的かどうかということがあって、残った場合におかれましては、地域のほかの幼稚園と連携したりとか、小学校に行き、がらんとしたところでがらんと過ごしたということがないように、移行措置としては、できるだけほかの園と連携した教育的な配慮を幼稚園のほうにお願いしたいということで、ここに書いているようなことです。教育的配慮が必要と考えるという意味はそういう意味です。そういった議論をここではやってきたかと思えます。

それから、高石中学校区における再編につきましては、総合評価の低い幼稚園は廃園することが基本となるわけですが、その対象幼稚園、廃園時期、地域における市立幼稚園に対するニーズ、小学校との教育的連携、さらには国が動いているときというこのタイミングなので、そういった国の動向を見据えた上で決めていかないと、慌てて今ここで決めないほうがいいんじゃないかという議論もあって、国の動向を見据えた上で決定することが望ましいという議論に達したと思っています。

高石校区に関しましては、就園率からいったときには違いが見られたんですけども、現在の園児数から見ると差異が見られないところもあって、その辺のところを議論すると、やや緩やかに考えていっていただくほうがいいんじゃないかということで、これに関しては、初めは5を3にするというような議論もあったんですけども、緩やかに考えていただくということで、皆さんの同意が得られたところではないかと思っています。

最終的には、今、国のこの一体化ということも含めたシステムの変更ということが言われていて、まだはっきり国も示してくださっているわけではありませんので、ただし、この国の動向とかいろんな意味で考えて、公立の先生方の人的環境をできるだけいい意味で集約して、最終的には地域の公立幼稚園が拠点になって、いろんなほかの私立幼稚園なりと、また私立保育園なり公立保育園もそうなんですけど、連携しながら一体的に提供していただけるような、私たちの議論の中では、マイナス思考ではなく、できるだけ夢をしゃべろうというふうな話をしてきたんじゃないかという部分もあるんですけども、そういった議論のまとめとして、質の高い学校教育・保育の一体的提供等が可能となるシステムの構築が必要と考えるということで、この中では、今後、公立幼稚園の先生方に、せっかくある力を十分に公として市民の方々に提供できるかということ、また改めていろんなアイデアを考えてほしいという話を、前回のときにはいろんなアイデアが、保護者の方

からも学識の方からも校長先生からも出されていたんじゃないかと思っています。

このページに関しましていかがでしょうか。

はい、お願いします。

○中谷委員 先ほどの上3行ですよね。1園でずっとあって、「1園に再編することが適正であると考えられる」というところがやっぱりひっかかります。私たちの議論はこの下の3行が主になったと思いますので、これを外していただいたほうが、1園に行く行くはなるのかと思われる可能性が大じゃないかと思いますので、やっぱりよく再編に関して相談した、検討したところ、「5園を3園に再編することが望ましい」というところへいつていただくほうが私はこの会の意味じゃないかなと思います。

それと、ずっと全部言っていないんですか。何か気になっている意見。

○大方委員長 どうぞ言ってください。その会ですから。

○中谷委員 それと、この高南中学校区の総合評価の低い幼稚園のことをずっと書いていただいている、そこでは「教育的配慮が必要と考える」というところなんですけれども、こちらの提言書のところには「保護者等への説明責任は十分に果たされたい」とあるんですけれども、これはもう重複するから省いているんですね。

○大方委員長 これはずっとつながっている。

○中谷委員 つながっているということですか。ここからが提言書になっていて、それで **不明** ということですね。これは、教育委員会は重々に説明はしていただきたいと思いますので、保護者への納得、理解というものをしっかりと受けていただきたいと思ます。

それと、一番最後、「高石中学校における」というところなんですけれども、前の会議のところで3園か4園かというところで、そんなに早まらないで国の動向を見据えてというところで、大方先生から、市のしっかりしたビジョンを決めてから、どんなふうにするかというふうなのを決められたほうが良いと言っていたんで、私もそのこととても大事かなと思いますので、この分は幼稚園のニーズ、保護者のニーズとか小学校との教育的連携のこととかいろいろ書いてあるんですけれども、でもやっぱり一番大事なものは、市がどんなふうこの状況を考えるかというビジョンをしっかりと持っておかないと、国がこうするからこうですよとか、保護者のニーズだからこうしようとかというのでは、やっぱりブレたらだめだと思いますので、高石市の幼児教育を考える上では一番大事なものだと思うので、そこは一言入れていただきたいなと思います。



それと、最後なんですけれども、下から2行目、質の高い学校教育なんですけれども、幼稚園教育ですか。

○大方委員長 幼児教育にしたほうがよりわかりやすいですか。

○中谷委員 幼児教育ということで私はずっと置きかえて。

○大方委員長 幼児教育のほうが私たちの段階ではわかりにくくて、一応は今、幼小、学校教育法の中に入っているという意味の学校教育を使うんですけれども、どっちでもいいんですけれども、幼児教育にしたほうがわかりやすいですか。

○中谷委員 私はそんなふうに思って、また皆さんに聞いていただいたら。よろしくお願いします。

以上です。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

そうしましたら、最初言っていた3行のところなんですけれども、いかがでしょうか。ある程度、もし残すとしたら、今、園長先生のおっしゃったことを反映するならば、「幼児教育のあり方検討委員会の報告の結果をかんがみると、1園に再編することが適正であるが、本会議においては」とかいうふうにすれば、その話し合ってきた結果としては表現できるのかなとは思いますが。

はい、委員、いかがでしょうか。

○西條委員 この3行について、僕たちがずっと話してきた中でいうと、ちょっととっぴな感じがするんで、やっぱり取るか、もしくは表現を変えていかへんかったら、上が僕らがずっと話してきたことじゃなくて、その下側がずっと話してきたことやから、ただ、上のことも、あれでも、あり方委員会はどうということも、また統廃合もあるんで、やっぱり取るか変えてもらわへんかったらちょっとしんどいなという気がしますね。

○大方委員長 はい、どうぞ。

○ト田委員 この3行についてなんですけど、提言書が一体だというふうな先ほど委員長さんからの説明もありましたので、そこを考えると、実は提言書の最初のページのところを見ていただくと、市立幼稚園の適正規模及び適正配置というところで、「1クラスの園児数はおおむね20名程度、また各年齢において複数学級となる規模を基本と考えるが」というふうな形のところに、今「対応を考慮した運用を願いたい」ということが書いてあるので、ここの中身を少し足すことによって十分に対応可能なのではないかというふうに思います。

そういう意味では、ここに入っていますし、実際とつびな感じがするというのと、もう一つは、この議論が実は話の定義だけでない可能性があって、高石市として今後公立幼稚園の位置づけをどうしていくのかという、そういうような理念とかなりかかわっている話だと。

中学校区という話が出てきたけれども、数を余り減らしたら中学校区でまとめようという議論じゃなかったわけですね。中学校区というところを軸にしながら、その地域の中で子どもたちが暮らしていくということであったり、あと小学校は必ず1小学校1幼稚園の感じにはならないけれども、近くにあることで、幼稚園児が小学校ってこういうところなんだとか、小学生ってこういう人たちなんだということがわかっていくということに興味があるだろうと。そのことが、むしろ公立幼稚園の役割であり、ニーズであるというふうな位置づけにしていこうというふうな形の議論だったと思うんですね。

そういう議論だというふうに考えていくと、このあたりのことというのは、むしろ現時点では、とにかく今後計画の変更の中で、幼稚園、保育所という垣根がなくなっていく中で、統一で議論しないといけないことが出てくるかもしれませんけれども、一つの中学校区で、例えばつながりの中で、そういう風な育ちが可能なんだというところを、現在強く押し出したような表現にしたほうが、ここの議論が反映されるのではないかなという気がしますんで、そこをどう書くという部分はちょっと難しいところはあるんですけども、少しそういうことを含めまして、そういう意味でも、最初の3行というのは前のところにおさめてしまったほうが意味があるような気がします。

○大方委員長 含めるということですね。既に最初に書いてあることだと。

副委員長、いかがですか。削除しますか。

○菊野副委員長 もうほかに書く **不明**、ここはどうかなと思ったんですけどね。前のが含めていますので、それでいいと思います。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

そしたら、「再編については」という言葉からにして、最初の3行と「しかしながら」までを取っていただいて、「再編については、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮する必要があることから、1中学校区1幼稚園を基本として再編を実施することとし、5園を3園に再編することが望ましい」ということで訂正してよろしいですか。

今までに話し合ってきた経緯としては、最初の提言書のページに書いてあるように、適正な規模としては、こちら、園児数はおおむね20名程度の複数学級が基本と考えるがとい

うことで、原則論は本当はこうなんだけれども、この会では一応こういうふうな再編計画を出しましたという形になると思いますので、西條委員が言ったようなことでよろしいですかね。

そうしましたら、すみません、事務局、1、2、3行と「しかしながら」までを取るということでお願いをしたいと思います。

それから、園長先生が次に言っていたのが3つ目、ビジョンのことですね。どこら辺で入れたらいいでしょうか。

○中谷委員 全部にかかってくるので、どこでというのはちょっと私も。

○大方委員長 それは別に1つのことじゃないですよ、最後ですね、どっちかといえば。一番最後ですね。

○中谷委員 あのお話の中では、4園か3園かというときには出た話なんですけれども、この統廃合していく中での一番もとにはなることだと思うんです。

○大方委員長 そうですね、ビジョンがあつてのことで、長期的なビジョンですんで。

そうしましたら最後の3行目、下から3行目「なお、子ども・子育て新システムが提唱する幼保一体化に向け」の次のところに「高石市は幼児教育に対するビジョンを掲げ、将来的には、さらなる市立幼稚園等の再編等により、質の高い学校教育・保育の一体的提供等」というふうにつなげたらよろしいですか。ご意見いかがでしょうか。

事務局、今の日本語でわかりますでしょうか。

○西條委員 もう一回言ってもらえますか。

○大方委員長 校長先生、日本語として合っているか、おかしくないか確認してください。

「なお、子ども・子育て新システムが提唱する幼保一体化に向け」という後ろですね。

「高石市は幼児教育に対するビジョンを」、ビジョンという言葉でいいですか。「理念を持って」でしょうか、「幼児教育に対する理念を持って」にしたほうが、ビジョンという片仮名になるので、「幼児教育に対する理念を持って、将来的には」ということでよろしいでしょうか。いいんでしょうかね。「高石市は」と。いいですか。

○西條委員 今ので、園長先生も、もうちょっとかみ砕いて言うと、どういうことをそこに、市がもうちょっと。

○中谷委員 もっとリードして高石市の幼児教育を推し進めていくというところでは。

○大方委員長 こんな幼児教育がやりたいなという高石の具体的な。

○中谷委員 そうですよ。でも、例えば最近のことでしたら、3歳児の、私たちは親子

見学会というのを職員から推し進めていっているんですけども、そういうことでも、周りの市の3歳児保育をしている、高石市が公立幼稚園の人数が少ない、じゃ、どういうふうに手を打ったらいいかというふうなことがやっぱり後手後手に回っていると私たちは思うんですね。そういう意味でも、国の政策とか周りの市とか情勢をよく見て、強く先々のものを打ち出していただきたいんですけども、そこにやっぱり理念というのが欠けているのじゃないかと思うんです。

○大方委員長 じゃ、いろいろこういう文章で書くとややこしくなるので、「理念を持って」だけ入れましょうか。「理念を持って将来的にはさらなる」というふうにしておきましょうか。なかったらおかしいんで、幼稚園の教育方針でも当然おありだと思いますので。

それだけでしたっけ、園長先生のほうは。何か忘れていましたか。

○中谷委員 質の高い学校教育が。

○大方委員長 幼児教育。

○中谷委員 幼児教育は学校教育に含まれるということがあるんですけども。

○大方委員長 それは決まっているわけじゃないんで。

○中谷委員 幼児教育にしておきます。

○大方委員長 そのほうがわかりやすいですか。じゃ、「質の高い幼児教育・保育の一体的」、小学校から見てもそれでよろしゅうございますか。結構ですか。

○西條委員 法律も難しいですね。法令上は学校教育に幼稚園も含まれてはいるけれども。

○大方委員長 事務局、どうですか。教育委員会として学校教育のほうが、表現するほうがいいですか。

○事務局 私どもは、国で議論されている言い回しが、こういった「質の高い学校教育」という言い回し。

○大方委員長 学校教育のほうが。

○事務局 国のほうの表現がこのようになっておりましたので、それに合わせた形で表現させていただいております。別に強くこだわるものではございません。

○大方委員長 その後に「保育」とついてきているので、「学校教育・保育」でわかるのであればわかるので、どうでしょうか。いかがですか、これについて。悩むんですよね。

○菊野委員 わかりやすく記述したらどうですか。学校と違うからね。

○大方委員長 学校教育基本法にはこれも入るので。

○菊野委員 まあそれはわかっているけど。

○西條委員 ただ、ぱっと読んだときには幼児教育のほうがわかりやすいですね。

○ト田委員 含めることで、ここを学校教育という形にすることで、ここの中で「学校教育・保育」という言い方をすると、先ほどその上に小中学校との連携の話も出てきているので、その連携のこともすべて含めた議論というとらえられ方になる可能性もあって、読む人によって読み方がちょっと変わる可能性がある。なので、幼児教育のこととして、幼児教育段階の施設のこととして書くのであれば、幼児教育にしておいたほうが通りはいいのではないかと。

○大方委員長 では、幼児教育でよろしいですか。学校教育（幼児教育）、意味が全然違ってくる。

○中谷委員 でも、幼稚園の再編の会議だから、そういう幼稚園のことをもとにした名前にしたらいいと思います。

○大方委員長 幼児教育にしておきましょう。では、「質の高い幼児教育・保育の一体的提供等」ということでお願いしたいと思います。

そうしましたら、そのページは変わって、最初の3行と「しかしながら」を2つ取って、「再編については」というところから、そして最後のところが、「理念を持って将来的には」となり、「質の高い幼児教育・保育の一体的提供」というようなことが必要と考えるということで終わると思います。よろしくをお願いします。

はい、どうぞ。

○ト田委員 1点だけいいですか。前半3行と6文字ぐらい削りましたけれども、そうなってくると、「再編については、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮する必要があることから」というのが、前の文章を受けて「必要があることから」という言い方になっていると思うんですけども、このままここだけが残ってしまうと、かなりネガティブな表現になってしまうので、それだとここで議論してきた、そこに再編することによってより充実した教育をという議論にならなくなるかもしれないので、「小中学校との連携を考慮し」で「、」にして「1中学校1幼稚園」という形の文章にしたほうが、この議論が正確に出るのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。そうしましたら、「再編については、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮し、1中学校区1幼稚園を基本とした再編を実施することとし、」というふうにしてもらってよろしいでしょうか。大丈夫ですか。

そうしましたら、あと1案、2案の中で、さっきの評価結果の説明のところを入れるか

入れないかということで、どちらかの案にさせていただいて、「案」を取って決定とさせていただきますたいんですけども、いかがでしょうか。

はい、菊野委員。

○菊野副委員長 最初は、僕はないほうがいいと思ったんです。なぜかという、すごくあいまいな話になるかなと思ったんですけどね、しかし、一応話聞いていると、いや、わかりやすいなと思って。6番だけちょっと何かあいまいなところがあるので、ちょっと気になるんですが、あってもいいのかなということは思います。最初はないほうがいいと思ったんですけど。

○大方委員長 はい、お願いします。

○中西委員 きょう最終日を迎えるんですけども、保護者の代表としまして、当初は5園そのままを残して3年保育にしてというのが一番の希望だったんですけども、そういうのが正直残念ではあるんですけども、近い将来、子どもシステムのことも加味しまして、近い将来3年になるということを踏まえたら、やはり教室等の増設や安全面、あと就園率、安全面なんかも考えないと、敷地面積の問題なんかも考えないといけないということは、この審議でもわかったような気がします。

この評価の説明を私はつけたほうがいいと思っているんですけども、それは保護者のほうからは、やはり何の説明もなく、こういう会ができ上がってしまって、今日報告だけを聞くという感じなので、全くこの内容が見えないようになってしまうような気がするんですね。

確かに厳しい結果ではあると思います。避難経路や就園率なんかも、敷地面積が狭いだとか、そういうこともはっきり数字で出ていますし、弱い園だとか、強い、非常に有利という言い方はおかしいですけども、こういう中でもいいとされているような園だとか、そういうのがはっきりとわかってしまう説明文ではありますが、これはある意味、保護者に読んでいただけたら、こういうことを審議してきたということがわかっていただけますし、納得いく説明文にもなるんじゃないかと私は思いますので、この説明文はつけたほうが私はいいと思います。

○大方委員長 貴重なご意見ありがとうございました。

そうしましたら、一応これで。

○西條委員 今、保護者の方が、やっぱりこういうのを読んでということもありますんで、僕もこれをつけてということでもいいかなと思いますけれども、プラスさっきのわかりにく

いところで地図に丸かいたやつを1つぐらいつけておいてもうたほうが、より、これを出すんやったら、そこまでつけてほしいなという気はしますね。

○大方委員長 はい、園長先生。

○中谷委員 私も、この説明をつけていただいたらよくわかるので、つけていただきたいんですけども、やっぱりひっかかるところが、この5番の、西條先生が地図をつけてもらったほうがいいということなんですけれども、バランスという言葉がとてもひっかかるんです。800メートルのところなんですけれども、点々と本当に端っこのところにあるんです。幼稚園が。それで、800メートルの円をかいたら一番重なりが少ないから、高石市の公立幼稚園として残すにはいいということなんですけれども、そういうことでのバランスがいいというのが、ちょっとこの言葉の意味はわかりにくい。私たちは5回審議してきたので、ああ、そういうことだとは思いますが、読んで、一部見ただけで、バランスがいいととれるかなという気がするんですが。

○大方委員長 ということは、この5は入れないほうがかえって誤解がないということですか。いろんな総合的なもので言っているの、そういうことも含めて今回は緩やかにということで、どうしても数字的なことだけで見たときに1園だけはしんどいかなということだけが最初にあって。

○中谷委員 それはわかるんですけども、言葉にひっかかっているのかもしれないんですけども、一般的にバランスがいいという私のイメージと。

○大方委員長 ええ、わかります。

○中谷委員 こういうことのバランスがいいとは随分ギャップがあるでしょう、私にはということなんですけれども。

○大方委員長 じゃ、この言葉は抜きましようか。要らないんじゃないですかね。「配置を調査したところ」とかにしましようかね。「配置を調査したところ」にして、その下のところも「通園圏と重複する箇所が少なく評価できる」ということで、この言葉が何かすみません。もうちょっと下のところも「重複する箇所が多くなる」ですね、「なる」で終わっておいたほうがいいですね。それでどうこうというわけではないので、「多くなる」と。この説明は、あくまでもこの評価結果のことをそのままストレートに書いているだけなんで、園長先生がおっしゃったようにしたほうがかえってわかりやすいと思います。ほかの委員もそれでよろしいですか。

ということは、園長先生もこの説明のページは入れておくほうが望ましいというお考え

でよろしいですね。

○中谷委員 はい。

○大方委員長 ト田委員は。

○ト田委員 そうですね、ここを入れたほうが、恐らく皆さんがおっしゃられているようにわかりやすいと思います。なので、入れておく必要はあるだろう。ただ、同時にこの項目に絞っていった理由というのをここに書くのか、それとも、例えば教育委員会のほうに説明を十分にされたいという話が出ていまして、入っていますけれども、例えばここに書き切れないような内容というのを補てんして説明をしていただく必要はあると思うんです。

例えば連携の話というのは、私、先ほどから何度も話しをしているところでいいますと、小学校との連携ということ考えたときに、なぜ中学校がいいのかというところの議論はいっぱいあったわけですね。やっぱり小学校に対するイメージができるというようなところが非常に大事だろうから、そこはここには恐らく書き切れないだろうと思いますので、説明が要るでしょうし、なぜ今の定員に対する充足率でなくて、通園区域内における市立幼稚園に対するニーズの評価というところをとったのかということに対しても、ここは説明が要ると思うんですよね。そのあたりに関しては、恐らく追加の説明という形で書き込んでしまうよりも、教育委員会からのご説明のときに、こういうことだということで説明してもらったほうがいいのかというふうには思います。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。いずれにしても、ちゃんと説明をしていただくということは、現実問題として保護者への説明というのは必要性があるので、最初の提言書の1枚目に書いている「保護者等への説明責任は十分に果たされたい」ということになりますので、ただ、この会はこういったことが分析した結果出てきましたよということ報告する会で、そこから先、どうしなさいということはなく、私たちはできるだけ数字ということだけじゃなくて、緩やかに世の中の動向も見据えて、保護者に説明しながら進めてほしいということで、最終のまとめになっているかとは思っています。

その中で、保護者の方もおっしゃっていましたように、この評価結果だけ見ても数字にあらわれているという形で、事実だけしか出ていませんけれども、それをこういうふうに解釈していったということは、半分書くと、これだけ読んだってようわからんという気もしなくはないんですけれども、書いてあるほうがわかりやすいというご意見もあるかなと思って案を1と2つくりました。皆様が入れたほうが良いということの意見が今のところ多いんですけれども、多ければ多い方を入れますし、ト田先生が今おっしゃった、もちろ



んここに全部書き切れるわけではないので、特に教育的なことで議論してきたことがなかなか書き切れていないこともたくさんありますから、そこは保護者へのご説明の中で言っていただけたらありがたいかなと。

この会の委員の方々は、それぞれ断腸の思いも持って、少しでも夢を語りたいということで、発展的解消になるようなことを話をしてきたと思いますので、そこは教育委員会も重々受けとめていただいて、ご説明いただけたらありがたいかなと思っています。

最終的に、ト田先生はこれは入れるということによろしいですか、そういうことですね。そうしましたら、時間も押し迫っていて、1案、2案というふうなことになったんですが、一部修正をしていただく必要性がありますが、修正箇所だけ確認をして「案」を取っていきたいと思います。

今のでいいますと、案1ではなくて案2ということに一応なったかと思しますので、案2のほうをもう一度ごらんください。

1ページ目は特にそのまま変更なく、2ページ目も変更がなく、3ページ目、下のところ、すみません、預かり保育ということに言葉を、3歳児保育のところですね、預かり保育と3歳児保育の試行実施ということになっていると思います。

それから、その次が特に修正もなく、その次の表も特に修正はなく、表の説明ですね、一覧表の評価結果の説明のところ、⑤のところの2行目ですね、「配置的なバランスを」という言葉を取って「配置を調査したところ」に直していただく。それから、4行目の「通園圏と重複する箇所が少なく評価できる」。バランス的にというのを取っていただきます。それから、⑥の2行上ですね、「重複する箇所が多くなる」で終わっていただいて、その後の「バランス的に」というところからは取っていただく。そしてここに、最後に(図)というふうに書いていただいて、ここに図を入れていただくということで、図の添付をお願いしたいと思います。

最後のページですね、先ほどから議論をしたところになりますが、最初の3行を取る、「しかしながら」も取る、「再編については、幼児の生活エリアや小中学校との連携を考慮し」と直し、「1中学校区1幼稚園を基本とした再編を実施することとし、5園を3園に再編することが」あくまでも「望ましい」という表現にしていく。

その後はそのままになりまして、一番最後のところですね、「なお、子ども・子育て新システムが提唱する幼保一体化に向け」、「理念を持って」という言葉が入り、「将来的には」というところから、「質の高い幼児教育・保育の」というふうな文言を変えていた

だくということになったかと思えます。よろしゅうございますでしょうか。

最終的には5園を3園なんですけれども、保護者への説明をしながら緩やかに、どうしても総合評価の低い幼稚園は廃園せざるを得ないことが望ましいというふうに、この会では言わざるを得ないというのが、先ほど保護者がおっしゃった、私が心を痛めることになるわけですね。ただ、年長さんに関しましては、どのようにするかを教育的な配慮も踏まえて考えるということで、ただ、残った場合にも教育的配慮として、集団として余りにも少ない人数になるので、その辺のところを確保できるようなことということを含めたこの言葉になっていると思えますので、卜田先生もおっしゃっているように、説明のところへは書き切れていないところは十分ありますので、その辺のところは、また教育委員会のほう、すみません、私たちの思いを酌んでいただいて、保護者のほうにご説明をしていただき、それを含んだ最終的な結論を出していただきたいと思います。

そして、何回も話が出てきて、理念を持ってということで、公立が主導し、そしてそのよさを発揮して運営できるような形ですね、地域の中核になっていけるような、そのためには人材もできるだけ集約するような形で、いい形で地域に、市民にわかるような形で発信していってもらえたらいいというような話も、ここで出ていたかと思えますので、その辺のところはまた酌み取っていただけたらと思えます。

3歳児保育、預かり保育ということも、何回も議論をしながら決めたことになりましたが、繰り返しますが、幼稚園のほうでも園長先生方が一生懸命勉強会をされているという話もここでは出ましたが、ちょっと今すぐというのは間に合わない分もありますが、子育て支援ということに関しては、どうぞその分に関しては、予算とか人とかは配置されるかどうかということは私たちにはわからないけれども、**不明**みたいな形で、今の子育て支援の部分で何とかできないだろうかという議論は、ここでは話としては出ていたんじゃないかと思えます。実際には、幼稚園の先生方は大変なことになるので、それが実現できるかどうかというのはまた別な話ですけども、そういう話はでたかと思えます。

以上、そういうことで、案2を中心とした形で、この高石市立幼稚園の再編等計画の提言書のほうを教育長のほうに提出させていただきたいと思えます。

一応、委員長の私のほうから教育長のほうに今の文を修正してお渡しをするということで、ご了解を得たいと思えますので、何回もこの夜遅くにお集まりいただきまして、さまざまな議論をしていただきましてありがとうございます。教育委員会におかれましては、それぞれの立場とそれぞれの思いで、断腸の思いで話し合いをしてきた部分もごさいます

し、夢を持ってよりよく高石市の幼児教育・保育がなされると、そのために私たちは議論をしてきたつもりですので、後ろ向きではなくて発展的解消という意味で、そしてあくまでも緩やかに、説明責任を伴って、保護者の理解を得ながらやっていただきたいということを最後の言葉とさせていただきたいと思います。

皆様方、ほかに何かございますか。よろしいですか。

なければ、これでこの会を解散とさせていただきたいと思います。

事務局のほう、何かございましたら、どうぞ、マイクをお返ししますから。

○事務局 5回にわたる委員会、どうもありがとうございました。

貴重なご意見を多数いただいておりますので、それに沿った形で実行に移してまいりたいと、そのように考えます。どうもありがとうございました。